

## 1 単元名 秋を見つけよう「秋の葉っぱを見つけてあそぼう②」

### 2 単元について

#### (1) 児童の実態 [3年1組・5人]

児童はこれまでにどんぐり拾いや落ち葉集めを経験しており、秋の散歩や工作を通して、秋の草木と触れあう活動をしてきている。しかし、秋が深まるにつれて木々はどのように変化していくかなど、時間の経過による自然の変化はあまり理解していない様子である。これは、どんぐりや落ち葉を集めることと季節の移り変わりがつながっていないからではないかと考えられる。

#### (2) 単元観

本単元は、秋の野山や草木について学習するに当たり、特別支援学校小学部学習指導要領生活科、国語科、算数科及び図画工作科の、主に以下の内容を基に設定している。

小学部 生活科 2段階 サ生命・自然  
身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとする事。  
身の回りの生命や自然について知ること。

小学部 国語科 2段階 知識及び技能(イ)  
遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。

小学部 算数科 1段階 C図形  
身の回りのものの形に注目し、同じ形を捉えたり、形の違いを捉えたりする力を養う。

小学部 図画工作科 2段階 A表現  
材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付くこと。  
身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくったりすること。

本単元では、自分で観察する木を決め、継続的に観察することで、木々の変化に注目し、季節の移り変わりに気付けるようにする。また、落ち葉や木の実を使った遊びを通して、落ち葉の色の変化や量の変化に気づき、自然の素材の面白さを生かした制作ができる。さらに、観察と遊びを繰り返すことで、自然に親しみをもち、季節の移り変わりを体験的に理解できるのではないかと考える。

#### (3) 指導観

夏から冬へ季節が移り変わるのを木の観察を通して感じ取るために、1か月おきに3回観察する場面を設定した。撮影した写真などを使い、木々の変化を比較して観察することで、葉の色の変化や落葉の量など、秋が深まるとどうなっていくか気付くことができると考える。また、落ち葉や木の実を制作の材料として集め、集めた素材を使って制作することで、素材の面白さを感じられるようにしたい。

このような学習を通して、身近な自然や季節の移り変わりに興味をもち、四季の変化を楽しむ心を育むことができると考える。また、変化を予想したり、考えを表現したりする場を設けることで、自分の考えを伝える喜びを感じることができると考える。

なお、単元には、観察する木を選ぶなどの自己決定(生活スキル)をする場面や、身近な素材で余暇に繋がる制作をする(社会・集団生活)活動を取り入れた。授業には、予想したり、気付いたりしたことを発表する場面を多く設けた。(コミュニケーション)

### 3 単元目標

- ・ 写真や観察記録で葉の色の変化や落葉に気づき、季節の変化を知る。[知識及び技能]
- ・ 木の実や落ち葉で、工夫して制作したり、遊んだりする。[知識及び技能]
- ・ 一本の木の変化に予想を立て、変化を観察したり、観察したまとめを伝え合ったりする。
- ・ 木の実や落ち葉を材料に、想像力を働かせて制作する。[思考力、判断力、表現力等]
- ・ 季節の変化に気づき、身近な自然に関心をもつ。[学びに向かう力、人間性等]

### 4 指導計画

※ 単元・題材シートの「指導計画」を参照。

「生活単元学習」単元シート（ 3年・知的 ）

大単元 「小単元名」	秋を見つけよう		期	10月/9～11月	児童数	職員数	
	「秋の葉っぱを見つけてあそぼう②」		間	3時間/全7時間	5	2	
実態における 単元設定	<p>これまでに児童は、季節の学習をし、落ち葉集めやどんぐり拾いなど秋の草木に親しむ活動をしてきている。しかし、季節の変化には関心が薄く、それぞれの季節の特徴をあまりつかめていない。そこで、本単元では、1本の木に注目して観察したり、集めた落ち葉や木の実で制作したりすることで、身近な自然への興味関心をもち、季節の移り変わりや自然の素材の面白さに気付けるようにしたい。また、継続して観察することで、予想を立てたり、気付いたことを表現したりすることができるのではないかと考える。</p>						
取り扱う 各教科の 主な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りの生命や自然について知る。【生活サ「生命・自然」2段階】</li> <li>・ 遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむ。【国語知識及び技能2段階】</li> <li>・ 身の回りのものの形に注目し、違いを捉える力を養う。【算数C図形1段階】</li> <li>・ 身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくったりする。【図工A表現2段階】</li> </ul>						
単元 目標	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 写真や観察記録で葉の色の変化や落葉に気づき、季節の変化を知る。</li> <li>・ 木の実や落ち葉で、工夫して制作したり、遊んだりする。</li> </ul>				生活、算数 図工、国語	
	思考力、判断力 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一本の木の変化に予想を立て、変化を観察したり、観察したまとめを伝え合ったりする。</li> <li>・ 木の実や落ち葉を材料に、想像力を働かせて制作する。</li> </ul>				生活、国語 図工、算数	
	学びに向かう 力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節の変化に気づき、身近な自然に関心をもつ。</li> </ul>				生活、国語 道徳	
指導 計画	<p>学習内容「観察・記録・収集」（1時間）</p> <p>1 木の変化を観察し記録しよう。※1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月に比べてどのように変化したか、考えながら観察・記録する。（国語）（算数）（生活）</li> <li>・ 写真撮影、観察記録などで変化に注目できるよう、葉の量や色などに注目する。（算数）（生活）</li> <li>・ 来月どのように変化するか予想する。（国語）（算数）（生活）</li> </ul> <p>2 制作に使う落ち葉や木の実を集めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時は落ち葉で鳥を作ることを知り、自分のイメージに合う落ち葉を集められるようにする。（生活）（図工）</li> </ul>				<p>〈目指す児童の姿〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己決定（生活）</li> <li>・ 協力・役割（社会・集団）</li> </ul>		
	<p>学習内容「制作」（2時間）〈本時〉</p> <p>1 落ち葉や木の実を観察しよう。※2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集めてきた色彩豊かな落ち葉や、木の実などをよく見て、制作に使うイメージを膨らませる。（生活）（図工）</li> </ul> <p>2 飛ぶ鳥を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 落ち葉や木の実と食品トレーなど身近な材料を組み合わせ、おもちゃの鳥を制作する。（図工）（算数）（生活）</li> <li>・ 的に向かって狙いを定めて飛ばすなど、作ったおもちゃで遊ぶ。※3（図工）（生活）</li> <li>・ よりバランスよく飛ばせるよう、飛んでいる様子を見て葉っぱの位置や枚数などを調整する。※4（図工）（算数）（生活）</li> </ul> <p>3 発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の作品のよさや面白さに注目しながら遊んだり、作品を発表したりする。（国語）（道徳）</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 余暇（社会・集団）</li> <li>・ 身体の動き（生活）</li> <li>・ コミュ（伝える・聞く）</li> </ul>		
共通 理解 事項 等	<p>※1 同じ木を月ごとに観察することで時間の経過による植物の変化に注目できるようにする。</p> <p>※2 落ち葉や木の実の色、形、大きさなどに注目し、どのように工作に取り入れるか考える場面を設定することで、それぞれの違いを感じながら制作ができるようにする。</p> <p>※3 「山、町、海、花畑」など、知っている風景を的にすることで、「次は〇〇に飛ばそう。」という意欲を引き出すことができるようにする。</p> <p>※4 友達の様子を見たり、教師のアドバイスを受けていたりすることで、葉を付ける位置や枚数などを工夫して制作できるようにする。</p>						
〈良かった点・改善策→教育課程〉							
○●							

5 本時

単元名	「秋を見つけよう」 (秋の葉っぱを見つけてあそぼう②)		時数	3 / 3	期日	令和 4年 10月 20日 (木) 5校時	場所	小3-1教室
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち葉を材料に、おもちゃがゆるやかに落ちるように工夫して制作することができる。(思考力・判断力・表現力等)</li> </ul>							
時間	主な学習活動	関連する各教科の内容	指導上の留意点 (★は目指す児童の姿に関する手立て)					
5分	1 始めの挨拶	<p>【生活-生命・自然】</p> <p>落ち葉を持ち上げてみたり、踏み台の上から落としてみたりしてゆっくり落ちる落ち葉があることに気付けるようにする。</p> <p>【図工-表現】</p> <p>食品トレーに落ち葉を付け、ゆるやかに落下するように、落ち葉の枚数や付ける位置を工夫しながら制作する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見本の落ち葉の鳥を見せ、鳥を作るにはどのような落ち葉がいいか考えられるようにする。</li> <li>★ 前時で集めた落ち葉を観察したり落としてみたりする中で、発見したことや気付いたことをお互いに伝え合えるようにする。【伝える】</li> <li>★ 食品トレーに竹串で穴を開けて落ち葉を刺す、セロハンテープで貼る、両面テープで教師と一緒に落ち葉を貼って制作するなど、実態に応じた制作方法を準備する。【身体の動き】</li> <li>床に的になるような絵(町、花畑、畑、海)を置き、「次は畑に飛ばそう。」など、目的を定めて飛ばすことで意欲的に制作に取り組めるようにする。</li> <li>★ 実際に落としてみながら制作したり、狙いを定めて落としたりして発想を膨らませ、制作を楽しめるようにする。【余暇】</li> <li>粘着テープは種類ごとにまとめるなど、使った道具を整理整頓できるようにする。</li> <li>★ 一人ずつ鳥を飛ばし、工夫した点や感想を発表する。【伝える・聞く】</li> <li>「秋の葉っぱを見つけてあそぼう」の学習計画表に印を付け、次回の活動に見通しがもてるようにする。</li> <li>★ 11月になると観察している木はどうなっているか予想し、発表する。【伝える】</li> </ul>					
5分	2 よく見てみよう。							
5分	3 今日の学習							
27分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>おちばのとりがゆっくりとぶにはどうしたらいいかな。</p> </div>							
5分	4 今日のまとめ							
3分	5 次時の学習の予告							
5分	6 終わりの挨拶							
場の設定								

生活単元学習評価シート 【秋を見つけよう「秋の葉っぱを見つけてあそぼう」】

評価の観点

知識及び技能	A 竹串やセロハンテープ、両面テープなどの道具の取扱いを理解し、適切に使うことができたか。 B 落ち葉で鳥を完成させ、遊びを楽しむことができたか。
思考力、判断力、表現力等	C (例) おもちゃが落ちる様子を予想し、葉の枚数や付ける位置などを工夫して制作できた。
主体的に学習に取り組む態度	D (例) 落ち葉がゆっくり落ちる様子に興味をもち、意欲的に制作することができた。
目指す児童の姿	E (例) 自分で考えたことや工夫したことを伝えることができた。(伝える)

児童名	評 価			思考力・判断力・表現力 C	主体的に学習に取り組む態度 D	目指す児童の姿 E
	A	B				
A	○	◎		割れていない落ち葉を選び、両面テープでたくさん貼り付けられた。	落ち葉で作った鳥がゆっくり跳ぶ姿をイメージし、自分で動かす姿が見られた。	身近な材料を使い、イメージを膨らませて制作を楽しむことができた。
B	○	○		トレーの向きを上向きにし、細長い葉といちょうの葉を交互に貼り付けていた。	集めてきた落ち葉の中でいちょうの葉の形に注目し、装飾に取り入れようとする姿が見られた。	トレーにテープが付きにくいことを、教師に尋ねられると伝えることができた。
C	○	◎		教師と一緒に、落ち葉や猫じゃらしを貼り付けて制作できた。	教師の言葉掛けに応じて、適量セロハンテープを切って制作できた。	使用するトレーや落ち葉を、自分で選んで制作することができた。
D	◎	◎		背中に立てる葉や、翼状に横に広げる葉ができるように制作し、葉が落ちないようにしっかり固定できた。	落ち葉の色や模様にも着目して制作することができた。	制作した鳥に、イメージに合う名前を付けて発表することができた。
E	◎	◎		細長いトレーを貫通するように串を通し、線対称になるように同じ形の葉を左右に付けていた。	落ち葉をはさみで切って足を作るなど、細部まで考えて制作することができた。	分からなかったことや疑問に感じたことを、言葉で表現することができた。

※ 「知識及び技能」の評価は「◎：達成できた ○：ほぼ達成できた △：達成できなかった」で実施し、その他の項目の評価は端的に記述で評価する。